

性感染症患者およびCSW(commercial sex workers) の咽頭における淋菌・クラミジアの保菌状況

データ出典:「性感染症に関する予防・治療の体系化
に関する研究」班平成21年度総括研究報告書

研究者 東京女子医科大学東医療センター
耳鼻咽喉科 教授 余田 敬子

検 討

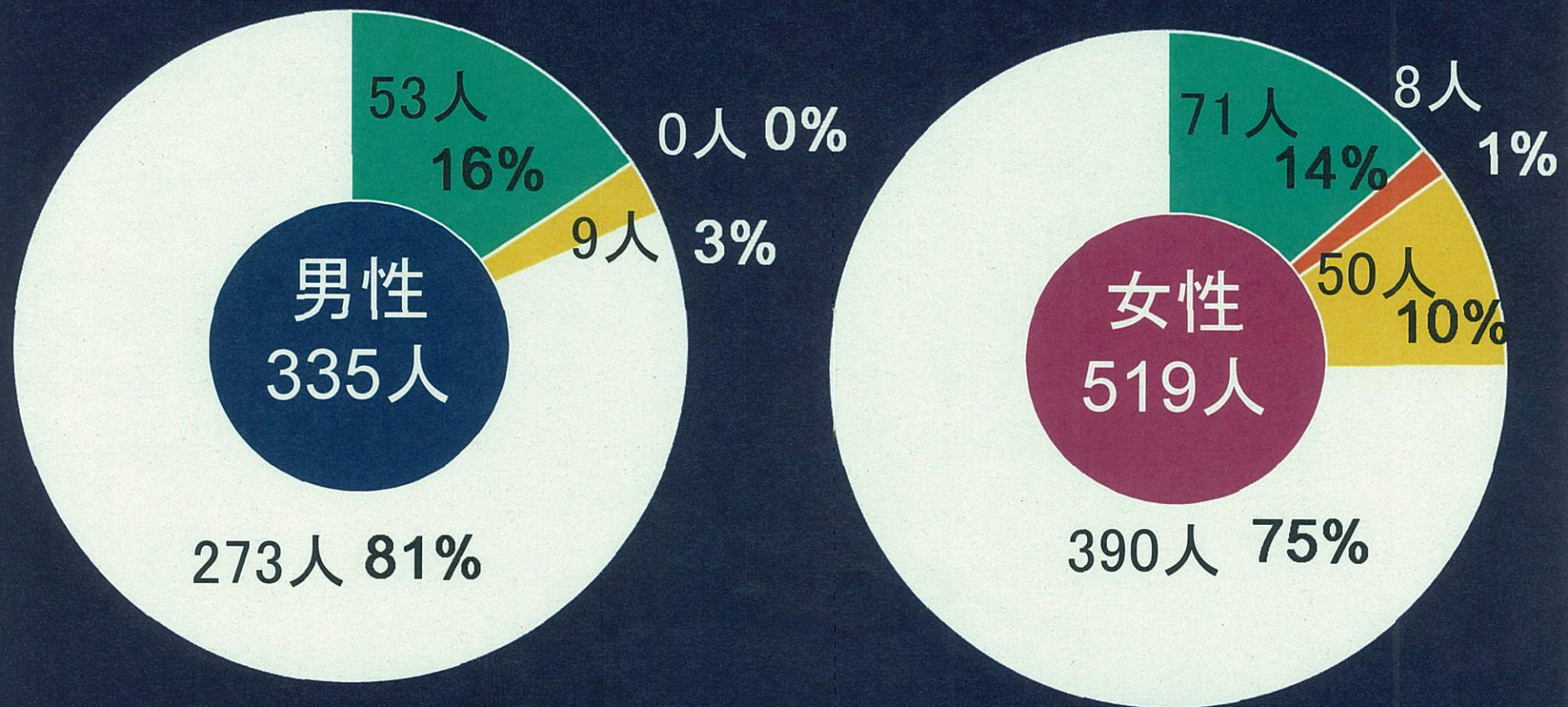
- 神奈川県川崎市堀之内の性感染症クリニック受診者
- 性感染症検査希望の男女, またはCSW。
- 前向き研究

対 象

	期間	人数	年齢分布	平均年齢
A	2005年 11月 1日 ～ 2006年 7月1日	男性 253	18-69歳	36.9歳
		女性 235	17-55歳	28.0歳
B	2008年 2月 13日 ～ 2008年 4月29日	男性 0		
		女性 116	19-57歳	29.2歳
C	2008年 9月 1日 ～ 2009年 1月16日	男性 82	20-60歳	33.5歳
		女性 168	18-57歳	28.9歳

男性 335人 女性 519人 計 854人

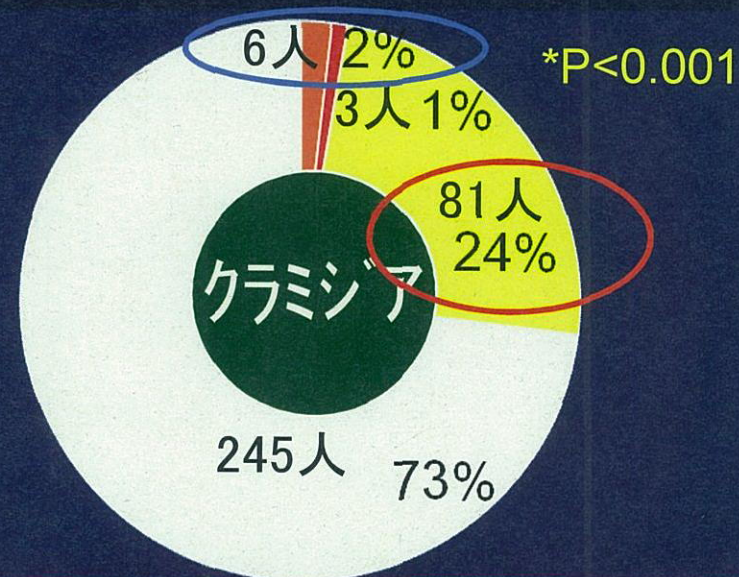
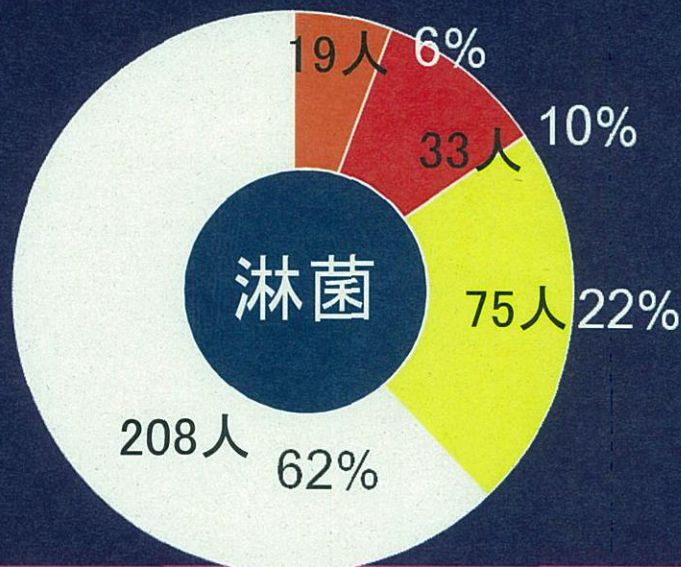
咽頭における 淋菌・クラミジア陽性者数



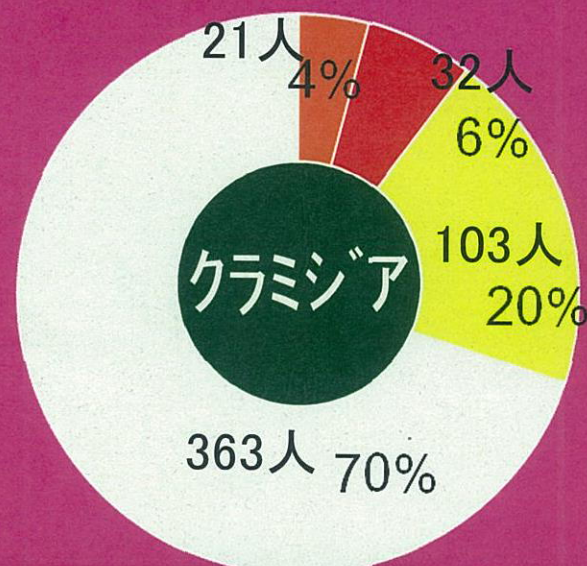
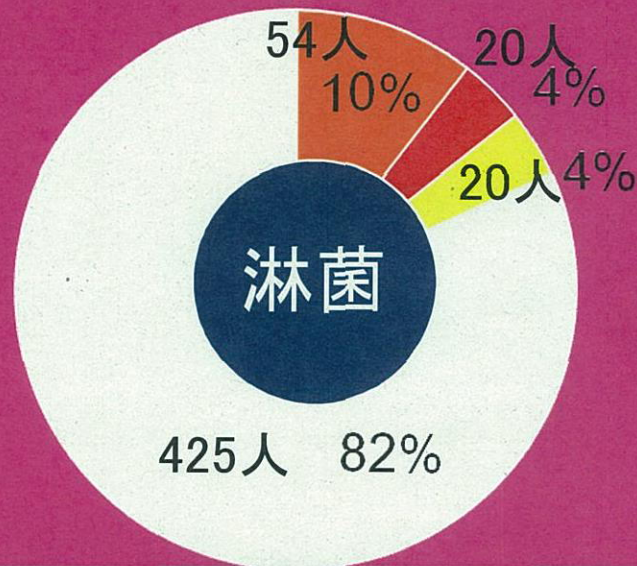
■ 淋菌のみ ■ 淋菌・クラミジア ■ クラミジアのみ ■ 陰性

咽頭・性器 同時検査の陽性者数

男性
335人



女性
519人



■ 咽頭のみ
 ■ 咽頭+性器
 ■ 性器のみ
 ■ 双方陰性

男女別 咽頭陽性率

期間		検体数	淋菌	クラミジア
川崎	2005年 ～ 2009年	男性 353	15.8 %	4.6 %
		女性 519	15.2 %	9.8 %
英国	1997年	男性 200	14.9 %	未検
		女性 125	18.2 %	未検
米・豪	2002年 ～ 2009年	男性 9892	2.5～9.5 % (6.6 %)	0～1.4 % (0.6 %)
		男性 7220		

女性の淋菌・クラミジア陽性率

対象		咽頭		性器
川崎	ソーブランド 156人	淋菌	16.0 % (25/156)	6.4 % (10/156)
		クラミジア	14.7 % (23/156)	31.7 % (51/156)
	ヘルス・ピンク 5人	淋菌	40.0 % (2/5)	20.0 % (1/5)
		クラミジア	20.0 % (1/5)	60.0 % (3/5)
京都	ソーブランド 139人	淋菌	5.1 % (2/39)	1.5 % (5/341)
		クラミジア	0 % (0/32)	8.3 % (25/300)
	ファッション ヘルス 439人	淋菌	13.8 % (176/1279)	0.2 % (2/1284)
		クラミジア	6.9 % (26/378)	19.1 % (13/68)
岡山	STI 疑 127人	淋菌	2.4 % (3/127)	5.5 % (7/127)
		クラミジア	7.1 % (9/127)	18.1 % (33/127)

CSWにおける尿道炎起炎菌の陽性率

京都のCSW 403人

	性器	咽頭
淋菌	1.7 %	4.0 %
クラミジア	7.2 %	2.0 %
<i>Mycoplasma genitalium</i>	1.7 %	0 %
<i>Mycoplasma hominis</i>	19.6 %	1.2 %
<i>Ureaplasma parvum</i>	40.0 %	0.2 %
<i>Ureaplasma urealyticum</i>	10.2 %	0.7 %

淋菌・クラミジアの咽頭感染

- 性器の淋菌・クラミジアの感染と関連性が高い。
- oral sex によって感染する。
- 淋菌は性風俗に関連しない人には少ない。
- 咽頭の淋菌・クラミジア陽性者の一部は自然に消失？

対策

- 性器の淋菌感染症が疑われる患者においては、生殖器と同時に咽頭についても淋菌・クラミジアの検出を行う。

(咽頭の淋菌・クラミジア感染の多くは咽頭に炎症所見がなく、自覚症状もないため、症状の有無で検査の必要性を判断することはできないことによる。)

(注)現在、保険診療では、生殖器と咽頭淋菌の同時検査が認められていない。

- 性器および咽頭の淋菌感染症には、セフトリアキソン1gの静注がガイドラインで推奨されており、この薬剤を投与すれば性器・咽頭の淋菌を同時に除菌できる。

◎咽頭感染については、的確な検査に基づく、早期の治療により、まん延防止につながる。